

# 地域と学ぶ

山形大地域教育文化学部

④

# 教育

小・中学校の教科書が切り替えの時期を迎えています。東日本大震災の経験を踏まえ、防災の内容がより充実したものになりました。また、多くの学校で避難訓練(防災訓練)にさまざまな工夫を凝らしています。

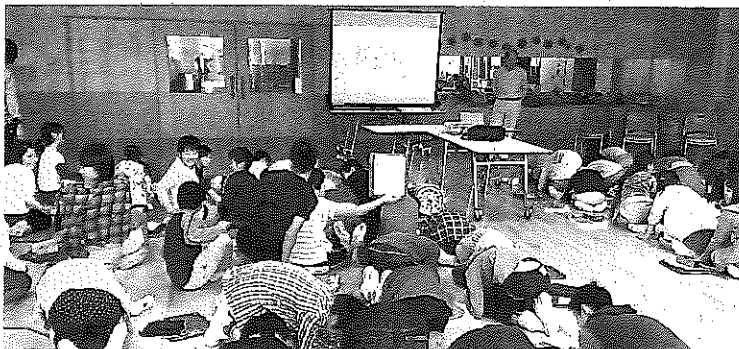
例えば山形県内でも、先生と児童生徒が一緒にいない休み時間などに実施すること、防火扉を閉めてその脇のくくり戸を使用すること、津波や液状化を想定してグラウンド以外へ避難することなどが行われています。遊佐町や鶴岡市の保育

## 地理学・防災教育 村山良之教授



▽1957年生まれ、天童市出身。山形大着任は2007年。12年から鶴岡市教育委員会、15年から酒田市教育委員会の防災教育アドバイザー。

筆者が酒田市亀ヶ崎小で実施した防災授業。自分自身で体を守る動作を指導した =10月5日



# 防災に強い先生養成

園や幼稚園では、最も避難に手間のかかる昼寝や昼食の時間の訓練も行われています。

津波で被災した、インドネシアのバンダアチエの学校を昨年訪問したら「避難訓練は防災担当消防の仕事を広めようとしています。」

ルニアでは、08年にシエークアウトという活動が始まり、避難訓練などを世界に広めようとしています。

の本年度入学生からは必修です。防災に強い先生を養成すべく、さらに授業内容の改善に努めます。

11月1回掲載します

日本では避難訓練は当たり前に行われていますが、世界を見渡すとそうではないようです。2004年のスマトラ沖地震による巨大

であり、学校で避難訓練をするには彼らに謝礼が必要だが、援助が終わってしまったのでできなくなった」

カリフォルニアでは、避難訓練が目指す災害への緊急対応だけでなく、児童生徒が災害のメカニズムを理解することも学校の防災教育の目的です。通常の

教科学習や特別活動の中に、このような防災の基礎的な内容が含まれています。

東日本大震災を経験した私たちは、その経験と教訓を世界に、そして次の世代にしっかりとつないでいく役割があります。山形大地域教育文化学部は本年度、「教員になるための学校防災の基礎」という授業を始めました。15回ある講義の約半分は災害のメカニズムに関するもので山形地方気象台の方に4回、また山形七小の校長先生にも学校の実態を踏まえた講義を1回、お願いしています。児童教育(小学校教員養成)コース